

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371001849		
法人名	万博メディカルケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームやすらぎの里 中野新町		
所在地	名古屋市市中川区中野新町三丁目51番地 (電話) 052-354-0050		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年5月9日	評価確定日	平成19年7月11日

【情報提供票より】(平成19年4月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年3月16日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 11人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.6人

### (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	21,500 円	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年4月22日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名	
要介護1	3名	要介護2	6名			
要介護3	4名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	1名			
年齢	平均	80歳	最低	62歳	最高	95歳
協力医療機関名	佐藤是医院					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街の一角にあり、近くには公園や神社があり散歩コースになっている。入居者が歩いて行ける距離に提携病院があり、病院との連携も図られ、入居者の健康相談や急な対応もでき家族の安心につながっている。入居者一人ひとりの生活を大切に、決して強制はしないよう職員は心がけている。入居者には、それぞれ役割を持ってもらい、役割を持つことでその人らしさを保ち、やりがいにもつながっている。何よりも本人の自主性を大切にしているホームである。今後、ホームの新聞を作り回覧板を活用し地域の方に見てもらい理解を深めていこうと計画していることから、実現に向けた取り組みが期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が始めての評価であり、評価の機会を通して、出てきた課題については職員と話し合い検討していきたいと管理者は考えている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、管理者と職員が一緒に取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、民生委員、入居者家族、事業関係者、職員が参加し概ね2か月に1回開催されている。家族の視点でホーム内の生活を評価してもらい、課題、改善点が出された場合は、ミーティングで職員と話し合い、改善状況を運営推進会議で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、家族が訪問した際に意見や要望等を言いやすいよう積極的に声をかけている。意見があった場合は、その都度申し送りノートに記録し、職員が確認し対応しておりミーティングでも検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に入会し組長会議に出席している。夏の納涼祭や町内清掃、ゴミ当番、学童の旗ふりなど地域の行事や活動に積極的に参加している。また学校で行われる消防署主催の講習会にも参加している。近所で着付け教室が行われる際には、ホームの駐車場を開放し利用してもらっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として、「その人らしくゆったりとしたやすらぎのある生活」を掲げている。現在、職員と話し合い、地域密着型サービスとしての役割を反映した理念を考案中である。	○	現在、職員と話し合い理念の検討をしている。地域密着型サービスの役割やグループホームに関わる法令の意義についても共有していくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員には、採用時に管理者から理念について伝えている。また、日々のケアで困ったり、悩んだ時は理念の原点に戻るようにミーティングで話している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し組長会議に出席している。夏の納涼祭や町内清掃、ゴミ当番、学童の旗ふりなど地域の行事や活動に積極的に参加している。また学校で行われる消防署主催の講習会にも参加している。近所で着付け教室が行われる際には、ホームの駐車場を開放し利用してもらっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価であり、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、管理者と職員が一緒に取りまとめた。評価の機会を通して、出てきた課題については職員と話し合い検討していきたいと管理者は考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員、入居者家族、事業関係者、職員が参加し概ね2カ月に1回開催されている。家族の視点でホーム内の生活を評価してもらい、課題、改善点が出された場合は、ミーティングで職員と話し合い、改善状況を運営推進会議で報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回区役所へ訪問しているが、情報の交換までには至っていない。	○	担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、運営の実態を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り「やすらぎの里」に、入居者の日常生活の様子の写真が掲載されており、ホーム便りと共に定期検診、往診の際の健康状態や金銭管理の状況が分かる書類を添付し家族に送付している。入居者に変化のあった場合は、随時家族に電話連絡されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は支払いのため月1回はホームへ訪問している。職員は、家族が訪問した際に意見や要望等を言いやすいよう積極的に声をかけている。意見があった場合は、その都度申し送りノートに記録し、職員が確認し対応しておりミーティングでも検討されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット（1階・2階）であるが、職員は1、2階を通した勤務ローテーションを組んでいる。職員との個人面談は行われていないが、問題が生じた場合は、個別の聞き取りがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は行われているが、段階的な研修までには至っていない。施設長は外部研修に参加している。研修受講後は、ホーム内の講習用に資料をまとめ、勉強会を実施し、情報の共有、意見交換をしている。職員全員が受けれるようにシフトを調整し勉強会の日程を何日か設けている。外部の講習は職員の希望により参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市のグループホーム連絡協議会に参加している。同業者と電話等で情報交換は行っているが交流までには至っていない。	○	地域の同業者との交流を希望しているが、なかなか現実には難しいようであるが、実現に向けた取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居はあるが、利用される方はほとんどいない。家族等の状況で利用が急がれる場合でも本人が入居してから安心して生活できるよう、見学の際に家族等と話し合いながら調整され、すぐに入居される方もいる。	○	家族等の状況で利用が急がれる場合でも、入居者が安心してサービスを利用できるよう、家族等と話し合いながら調整されることを期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者の関わり合いとして、家族として支えあう関係を作り、教わる立場で声かけをし入居者から行動してもらい、常に心がけ接している。入居者に役割をもってもらい、できる事からやってもらい、職員と一緒に協力しながら行っている。日常的に「ありがとう」の言葉を言うように心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位の生活を基本にしており、一人ひとりに役割分担がある。家族や入居者の希望をできる限り聞き対応している。日常生活の中でのリハビリを続ける中で、車いすで入居された方が、歩行できるようになった利用者もいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前に訪問し、生活歴や家族関係、趣味、ホームでどのような生活をしたのか等、家族とご本人の希望を聞き取り、介護計画書を作成している。入居後は入居者の状態を見て、計画を見直している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態が良く変化がない場合はそのまま継続されている。変化が生じた場合は随時見直しが行われ、家族に電話連絡している。面会時に家族に確認し計画書に記名をもらっている。職員には連絡ノートで、入居者の様子や見直しされた計画について申し送りがされている。	○	変化が生じない場合でも定期的に見直しされることを期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内に介護タクシーの事業所があり事前に予約をすれば、利用することができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族と相談し、かかりつけ医より紹介状をもらい、ホームの協力医療機関に変更している。2週間に1回往診があり、診療時間内であれば随時往診も可能である。夜間は、近くに救急病院と連絡を取るようになっている。歯科医も近く、職員が付き添い受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針が作成されており、入居時に家族に説明されている。医療の重度化はホームで対応することができないが、家族の希望や同意があれば、胃ろうについては対応が可能である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについての文書が、玄関に掲示しており、入居時に家族に説明している。個人記録は、入居者の名前がイニシャルで明記されている。プライバシーに配慮しながらケアにあたっているが、言葉がけによる、行き違いが生じた場合には誠意をもって対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	医師の許可があれば飲酒は可能である。現在晩酌をされている入居者もいる。散歩は毎日行われているが、入居者の体調に合わせ、一人ひとりのペースを大切に支援がなされている。職員は、毎日声かけをしているが強制はせず入居者の自主性を尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の希望を取り入れ作られており、朝食は、個人の好きな時間で取ることができる。基本は食堂でとることになっているが、体調により部屋で食事を取る事も可能である。食事の準備や片付けはできる人にやってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、午後からの入浴であるが、希望者には、何時でも入浴できるよう対応している。毎日入浴している入居者もいるが、3日以上入浴されない方には様子をみて職員が声かけをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1回は季節を感じる行事を計画している。また、入居者から、日々のレクリエーションの希望（編物、種の購入、草木を育てる等）が出された時は個別に対応している。季節の行事として、花見やクリスマス会、年末には餅つきなど計画している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域に2の市（2日・12日・22日）の露天市場があり、職員と入居者が一緒に買物を楽しんでいる。食事の買物や近所の喫茶店へ行ったり、理美容院へ出かけたりしている。散歩は毎日行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、夜間以外は何時でも開いているので自由に出入りができるようになっている。職員に声をかけ出かけている入居者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各居室にスプリンクラーが設置してあり、リビングには火災報知機が設置されている。今までに1回、地域指定の避難場所へ移動し、避難訓練を行った。防災訓練計画やマニュアルもあり非常用備蓄品も3日分用意されている。	○	地域との協力体制作りを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、1日10以上取るように心がけている。毎回、食事の摂取量をチェックし記録している。おかわりも自由である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが強い時は、レースのカーテンや布カーテンで調節をし気温が30度を超えた時はエアコンで調節し職員が管理している。居間には、職員持参の花が飾られており、入居者が折紙で作成した鯉のぼりが飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等、入居者の使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらい、居室を自由に装飾してもらっている。火気以外は持ち込み自由であり、仏壇を持ち込まれている方もいる。ローソクの火を使う場合は職員が立ち会っている。	○	入居者の持ち物が少なかったり、家族の協力が得られない場合でも、入居者がその人らしく過ごせるよう取り組んでいくことが期待される。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。